

2014年3月期 第2四半期決算説明会

2013年11月1日

株式会社日清製粉グループ本社

日清製粉グループ本社の大枝でございます。この度は、弊社決算説明会にご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。

当社グループが2020年を見据えた中期経営計画「NNI-120、スピードと成長、拡大」を昨年4月にスタートさせてから、1年半が経過しました。現時点の私の率直な気持ちとしては、価格改定(値上げ)、消費増税、TPP交渉等、様々な課題はあるものの、一方では計画の進捗について確かな手応えを感じております。

中期経営計画では、売上高1兆円、海外売上高比率30%以上という具体的な数値目標を掲げておりますが、今上期の売上高2,393億円は、5年ぶりに過去最高となり、通期でも過去最高の売上高の達成を見込んでいます。

また、海外売上高比率につきましても、中期経営計画スタート時点の2011年度は4%台でしたが、2012年度は8%、今上期は11%を超え、2013年度通期では12%と見込んでおり、中期計画の目標に向けてオンラインで伸びていると感じています。

これからも様々な課題に対し、一つ一つスピード感を持って対処し、当社グループを成長、拡大させていきたいと考えております。

目 次

I. 小麦相場・TPP

II. 第2四半期(累計)実績と通期見通し

III. 中期経営計画の進捗と具体的成果

IV. 利益配分について

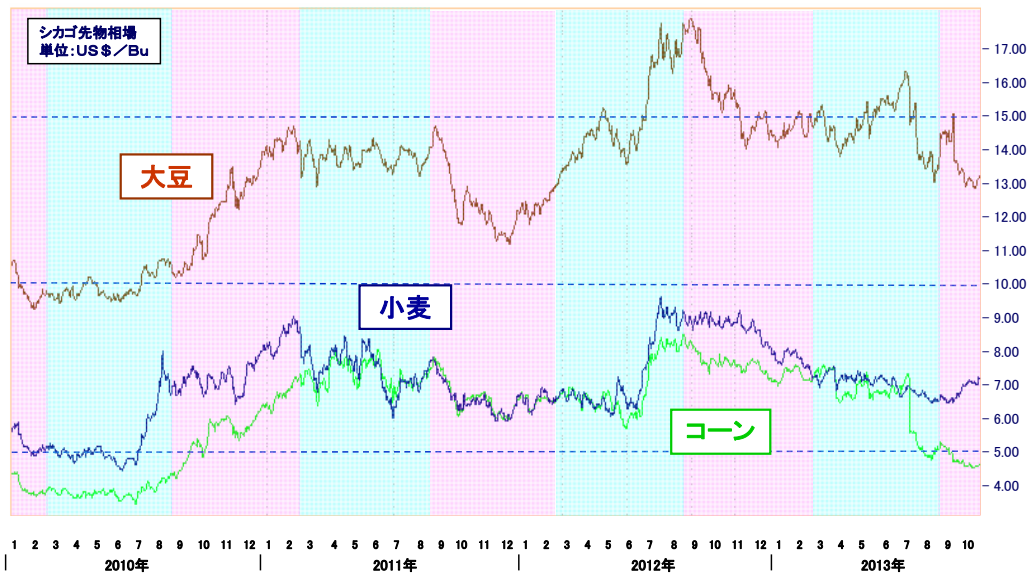
I . 小麦相場・TPP

1. 小麦相場の状況①

健康と信頼をお届けする

日清製粉グループ

【穀物相場推移】



3

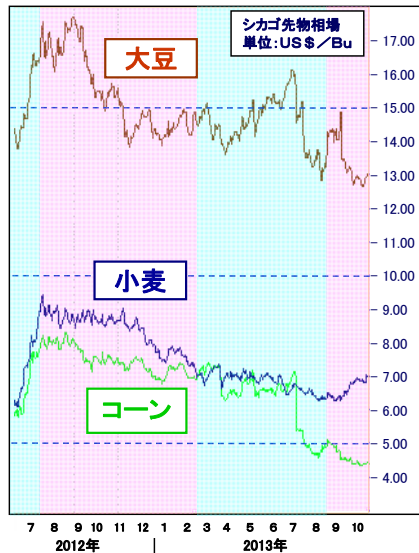
まず、2012年の小麦相場の状況ですが、2012年はアメリカで56年ぶりの大旱魃の影響から、大豆とコーンの相場が急騰し、それにつられて小麦相場も上昇しました。

1. 小麦相場の状況②

健康と信頼をお届けする

日清製粉グループ

【穀物相場推移 2012年7月以降】



大豆・コーン

- ・大豆、コーンは世界在庫レベルが低水準で推移する中で、2012年産の米国の56年ぶりの大旱魃により7月から急騰
- ・大豆は2012年9月に史上最高値(17.7US\$/bu)、コーンは同8月に史上最高値(8.3US\$/bu)を記録
- ・10月以降は、南米の増産見込みから軟調に推移
- ・2013年7月に米国産の豊作見込みから急落し、特にコーンは3年振りに5US\$/bu割れ

小麦

- ・小麦は2012年7月に大豆・コーンに追随して高騰
- ・2012年8月以降は、世界在庫レベルが潤沢で、2012年産も豊作であったため、価格は軟調に推移
- ・2013年7月以降は、大豆・コーンの価格下落に対して、小麦は2013年産の一部地域の減産懸念に加えて、中国の不作による輸入増加もあり、やや強含みに推移

4

今年は様変わりとなっており、2013年の7月以降、コーンと大豆相場が下がり、小麦は横ばいとなっています。

コーンについては、アメリカを始め北半球の主要生産国で軒並み大豊作となり、収穫も終わっています。またアルゼンチン等の南半球でも豊作が見込まれており、期末在庫は適正水準となる見込みです。これを受けて、昨年8.3 USドル/buという史上最高値を付けた相場は、現時点においては、4ドル台前半まで下がっています。

一方、小麦については、作柄にバラつきがあり、例えば中国では生産状況が良くなく、アメリカからの輸入が増加しています。アメリカは基本的には豊作ですが、日本も輸入している冬小麦はあまり良くない状況です。南米もアルゼンチンを中心に旱魃の影響を受け状況は良くありません。

以上の状況から、現在の穀物相場は、コーンはやや下がっていますが、小麦については横ばいから若干強含みとなっています。

1. 小麦相場の状況③

健康と信頼をお届けする

 日清製粉グループ

➤ 2013年10月期 麦価値上げの背景（改定額算定期間：2013年3月～8月）

- ・2012年8月以降は、世界在庫レベルが潤沢で、2012年産も豊作であったため、価格は軟調に推移
- ・一方で、昨年12月以降の円安により、政府買付け価格は上昇
2013年10月期麦価改定算定期間：平均99円/米ドル 前期：平均84円/米ドル
(農林水産省資料より)

2013年10月 1日～ 輸入麦政府売渡価格 **4.1%値上げ**
12月20日～ 日清製粉 業務用小麦粉の値上げ(3回連続の値上げ)

➤ 次回(2014年4月)麦価改定（改定額算定期間：2013年9月～2014年2月）

【今後の小麦相場の見通し】

上昇要因

- ・天候不順によるアルゼンチンの生育遅れ、ロシア、ウクライナの作付遅れによる減産懸念
- ・中国産小麦の不作(数量減・品質懸念)による中国の輸入量の増加見込み

下落要因

- ・カナダ産、豪州産小麦の豊作見通しによる世界小麦生産量の増加
- ・米国冬小麦地帯の土壌水分改善と好天による2014年産の播種・作付進展

5

次に、小麦相場を踏まえた輸入麦の政府売渡価格についてご説明します。
今年の10月1日から、政府から製粉会社への売渡価格が4.1%値上げとなりました。最大の要因は円安であり、前期が84円/USドルであったものが、今期は99円/USドルと15円の円安となり、10月からの麦価が値上げされました。

次回の麦価改定は、来年4月に予定されており、6ヶ月間の改定額算定期間のうち、すでに9月、10月と2ヶ月の小麦の買付けが終了しています。

今後、4ヶ月間の算定期間が残っており、小麦相場、為替相場、海上運賃の動向によって買付価格が変動する可能性はありますが、現時点の農林水産省の公表値で試算すると、1%～2%の値下げという水準になっています。

2. TPPについて①

健康と信頼をお届けする



TPP交渉の推移

▶2013年7月 日本がTPP交渉に参加

〔参加12カ国…アメリカ、カナダ、ニュージーランド、チリ、メキシコ、ペルー、オーストラリア、ブルネイ、マレーシア、ベトナム、シンガポール、日本〕

* 政府…「農林水産分野の重要5品目(米、**麦**、牛・豚肉、乳製品、砂糖)の聖域の確保を最優先する」との考え

重要5品目	コメ	58	品目
	麦	109	
	牛・豚肉	100	
	乳製品	188	
	砂糖	131	
	計	586	品目

全品目9,018品目のうち、重要5品目586品目の関税を全て維持した場合、自由化率は93.5%となる

▶2013年10月 TPP交渉 バリ(インドネシア)

- ・年内妥結に向けて取り組むことを合意
- ・関税交渉で、最もセンシティブな品目の取扱いの合意が課題となっている

自民党TPP対策委員会→対象品目について検証をする方針

6

TPPに関しまして、ご説明申し上げます。

まず、現在の政府の考えでは、米、麦、牛肉・豚肉、乳製品、砂糖の重要5品目の聖域の確保を最優先するとされています。この場合、自由化率は93.5%となりますが、諸外国が求める95%という高いレベルには届かないということから、対象品目の検証を行うとされています。TPPについては、非常に厳しい情報管理がなされており、当社としても十分な情報が得られてはおりませんが、現在の安倍政権は非常に実行力があり、TPPを進めて行く力も備えていると感じており、当社としても引き続き注視してまいります。

2. TPPについて②

健康と信頼をお届けする



＜TPPに対する視点＞

- ① 現在日本で使用されている小麦の9割は海外に依存しており、食料安全保障面で支障がないよう、国民の主要食糧である小麦の安定確保についての十分な検証が必要
- ② 小麦は幅広い食品の原料に使用されており、小麦生産者、製粉産業、食品産業、消費者、すべての段階での影響を踏まえた国境措置の整合性の維持が必要



当社グループは引き続き、国民の『健康で豊かな生活づくりに貢献すること』を目指し、**安全・安心な製品を安定的に生産・供給**していくことと、将来に想定される海外の製粉会社及び海外からの輸入品との競争において、コスト面で**勝ち抜けるコスト競争力**の強化をスピード感を持って推進していく

7

また、当社が重視しているTPPに対する視点としましては、1つ目は国民の主要食糧の安定確保、2つ目は国境措置の整合性の確保が重要であるという点です。

原料である小麦だけに関税が残り、小麦粉やスパゲティ、パン等の小麦粉製品の関税がなくなってしまうと、国内で製粉産業が立ち行かなくなってしまうこととなります。従って、小麦と小麦粉及び小麦粉製品との関税の整合性の確保が必要であり、このことが当社が最も重要と考えている点です。

Ⅱ．第2四半期(累計)実績と通期見通し

1. 第2四半期(累計)実績

健康と信頼をお届けする



- 国内業務用小麦粉、加工食品の出荷伸長及びミラー・ミリング社、チャンピオン製粉の連結効果等により、第2四半期累計で売上高は**過去最高**(前年比+7.9%)
- 出荷伸張に加え、各事業におけるコストダウン、ふすま市況堅調等により**増益**(営業利益前年比+4.0%、経常利益前年比+3.3%)
- 当期純利益も**増益**(前年比+4.2%)

(単位:百万円)

	2014年3月期 第2四半期 (累計)実績	業績見通し		前年	
		見通し	比	実績	比
売上高	239,322	238,000	+0.6%	221,797	+7.9%
営業利益	10,305	10,300	+0.1%	9,912	+4.0%
経常利益	11,845	11,700	+1.2%	11,468	+3.3%
四半期純利益	7,119	6,900	+3.2%	6,833	+4.2%

※金額は百万円未満切り捨て

9

続いて、今上期の実績ですが、今期の実績はこの表にある通り、増収・増益となりました。

2. 2014年3月期通期 見通し

健康と信頼をお届けする



- ・各事業におけるトップライン(売上高)の拡大及び製粉海外子会社の連結効果等により**増収**見込み(前年比+7.6%)
- ・トップラインの拡大に加え、コストダウンの実行等により**増益**見込み(営業利益前年比+9.0%、経常利益前年比+6.3%)

(単位:百万円)

	2013年3月期 実 績	2014年3月期 見通し	前年差	前年比
売上高	455,566	490,000	+34,433	+7.6%
営業利益	21,740	23,700	+1,960	+9.0%
経常利益	24,742	26,300	+1,558	+6.3%
当期純利益	13,688	16,000	+2,311	+16.9%

* 2013年5月発表の業績予想を据え置く

※金額は百万円未満切り捨て

10

通期の業績見通しにつきましては、当初の業績予想を変更せず、据え置きとしております。

Ⅲ. 中期経営計画の進捗と具体的成果



1. 具体的成果

健康と信頼をお届けする



中期経営計画「NNI-120、スピードと成長、拡大」

- 2012年 2月 オリエンタル酵母工業(株) 総菜新工場稼働(千葉県富里市、旧工場の約2倍の能力)
3月 ミラー・ミリング社買収(全米9位の製粉会社)
4月 **中期経営計画「NNI-120、スピードと成長、拡大」スタート**
5月 製粉福岡新工場建設に着工(2014年2月稼働予定)
日清ファルマ(株) 自社通信販売を開始
8月 日清ファルマ(株) 医薬品原薬「EPA-E」の本格出荷を開始
10月 日清製粉プレミックス(株)設立 開発・製造・販売を一体化したグローバルカンパニー
12月 総合中食サプライヤー トオカツフーズ(株)に出資(持分法適用会社に)
(株)NBCメッシュテック インドネシア工場生産能力倍増
オリエンタル酵母工業(株) 新補酵素棟稼働(滋賀県長浜市、生産能力40%増強)
- 2013年 1月 日清STC製粉(株)(タイ) 生産能力20%増強
2月 チャンピオン製粉買収(ニュージーランド最大の製粉会社)
ミラー・ミリング社 生産能力30%増強
日清ペットフード(株) “国産”療法食市場に参入
4月 インドネシア日清テクノミック(株) 事業開始(業務用プレミックスの販売)
6月 ベトナム日清製粉設立 (調理加工食品製造拠点、2014年秋工場稼働予定)
8月 タイ日清テクノミック(株) 生産能力25%増強に着工(2014年末稼働予定)
10月 製粉知多工場新ライン増設に着工(2015年5月稼働予定)

12

続きまして、中期経営計画についてご説明いたします。

昨年4月にスタートしましたが、これまでに得られた具体的な成果について、
いくつか強調してご説明申し上げたい点がございます。

2. 国内製粉工場の生産集約①

健康と信頼をお届けする

日清製粉グループ

福岡新工場の建設 最終ステージ

- 設備投資額:約100億円
- 生産能力:550トン/日(2ライン)
- 2014年2月稼働予定**
- 鳥栖・筑後の2工場閉鎖



(建設中の福岡新工場 2013.9撮影)

知多工場新ライン増設 着工

- 設備投資額:約60億円
- 新ライン生産能力:320トン/日
(知多工場の生産能力:660トン/日→980トン/日)
- 2013年10月着工、**2015年5月稼働予定**
- 名古屋工場一部ライン停止



(新ライン増設後の知多工場の完成予想図)

※生産能力は原料小麦ベース

将来に想定される海外の製粉会社及び海外からの輸入品との競争において、コスト面で勝ち抜けるコスト競争力の強化をスピードを上げて推進

13

まず、国内製粉工場の生産集約に向けた取り組みです。

福岡の新工場は、来年の2月に稼働する予定となっており、知多工場の新ラインはこの10月に着工し、2015年の5月に稼働する予定となっております。国内の製粉工場の生産集約に関する基本的な考え方は、最速のスピードで進めるということで、2工場の建設工事を同時に、最短・最速で進めています。もう一つは、グローバルスタンダードの建設コストで行うということです。将来の海外からの輸入品に対する競争力を確保するため、建設コストについても最小限に抑え、グローバルスタンダードの視点を持って本施策を進めています。

2. 国内製粉工場の生産集約②

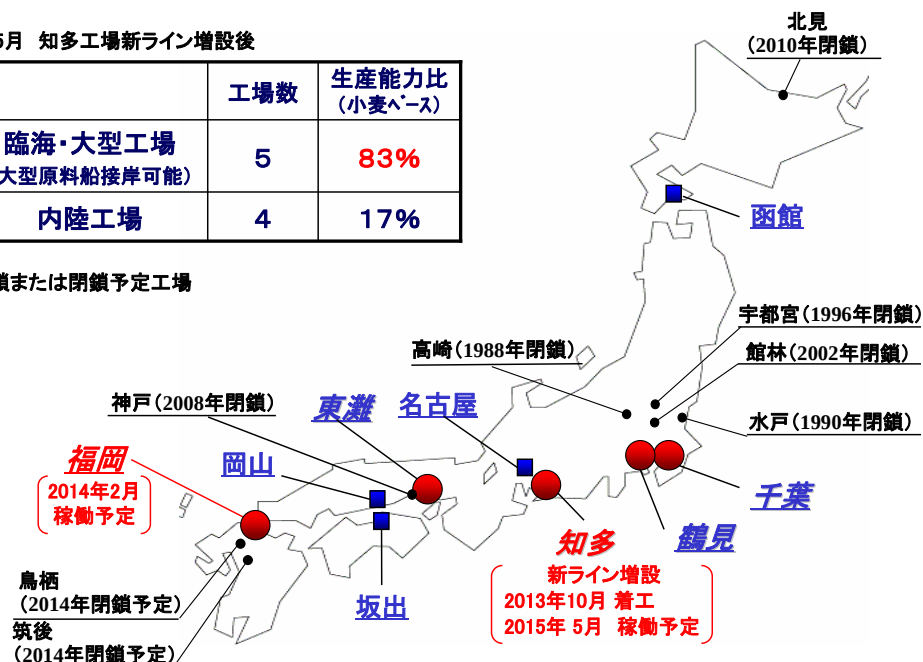
健康と信頼をお届けする



* 2015年5月 知多工場新ライン増設後

		工場数	生産能力比 (小麦ベース)
●	臨海・大型工場 (大型原料船接岸可能)	5	83%
■	内陸工場	4	17%

●: 閉鎖または閉鎖予定工場



14

福岡工場と知多工場の工事が完了すると、臨海・大型工場の生産能力は、千葉、鶴見、知多、東灘、福岡の5工場で83%となり、大半の製造が生産性の高い工場に集約されることになります。

3. 中食・惣菜事業の強化

健康と信頼をお届けする



中食・惣菜事業を成長分野の一つと位置付け、グループの主力事業に育てるべく取組みを強化

- 量販店との取組み強化等により業績順調(イニシオフーズ)
- 昨年12月に出資したトオカツフーズ(株)とのシナジー創出に向けた取組みを実行

トオカツフーズ

- ・全国的な生産拠点
- ・幅広い生産ノウハウ

+

当社グループ

- ・商品開発力
- ・品質管理ノウハウ

トオカツフーズ(株) 会社概要

2012年12月 同社の普通株式49%他を取得(持分法適用会社)

- ・国内有数の中食・惣菜サプライヤー
- ・連結売上高:約900億円
- ・全国に惣菜工場16工場 冷凍食品工場2工場保有
- ・コンビニエンスストアを中心に弁当・惣菜・サンドイッチ・おにぎり等を供給

続いて、中食・惣菜事業の強化です。

当社では従来からイニシオフーズが中食・惣菜事業を展開しておりますが、昨年12月にトオカツフーズに出資し、両社のシナジー創出も含め、当社グループの戦略部門の一つとして事業の拡大に注力しているところです。

4. 海外事業の拡大(製粉事業)①

健康と信頼をお届けする



ミラー・ミリング社(米国)

〔 2012年3月 買収
2013年2月 生産能力30%増強 〕

- **生産能力30%増強**を活かした、積極的な拡販策の推進
- 当社のノウハウを活かした提案営業によるベーカリー等への出荷拡大

チャンピオン製粉(ニュージーランド)

〔 2013年2月 買収 〕

- **PMI***を推進し、会社組織の整備、ITシステムの構築等を実施
- 現地小麦粉マーケットの把握ときめ細かい営業活動による小麦粉・ミックスの拡販

* PMI(Post Merger Integration)・・・M&A後の統合プロセス

日清STC製粉(タイ)

〔 2013年1月 生産能力20%増強 〕

- **生産能力20%増強**を活かし、安定かつ高品質を求めるユーザーへの拡販及び近隣諸国への輸出増大

16

次に、海外事業です。

昨年、アメリカのミラー・ミリング社、ニュージーランドのチャンピオン製粉の2社を買収するとともに、ミラー・ミリング社で30%、また既存の日清STC製粉で20%の生産能力の増強を行いました。

ミラー・ミリング社について少しご紹介いたします。現在、バージニア州にウィンチェスター工場、カリフォルニア州にフレズノ工場の2工場を保有しています。ウィンチェスター工場は1ラインを増設し、現在4ラインとなっており、1日当りの生産能力(原料小麦ベース)は1,640トンと、単一工場ではアメリカで5番目に大きな工場です。また、同工場のもう一つの特徴として、小麦粉は全てバラ輸送で10トン単位の大口のお客様にのみ出荷しており、非常に効率の良い工場となっています。原料調達でも、従来は55輻編成の貨車での輸送であったものが、今後は倍の110輻編成のシャトルトレインでの受け入れが可能となり、原料の輸送コストを大きく引き下げることが出来ることとなります。

110輻のシャトルトレインでの原料搬入が可能な製粉工場は、アメリカでも数工場しかなく、規模としてはアメリカで第5位の工場ですが、生産性の面では最も高い工場であると考えており、今後も更なる活用を進めてまいります。

4. 海外事業の拡大(製粉事業)②

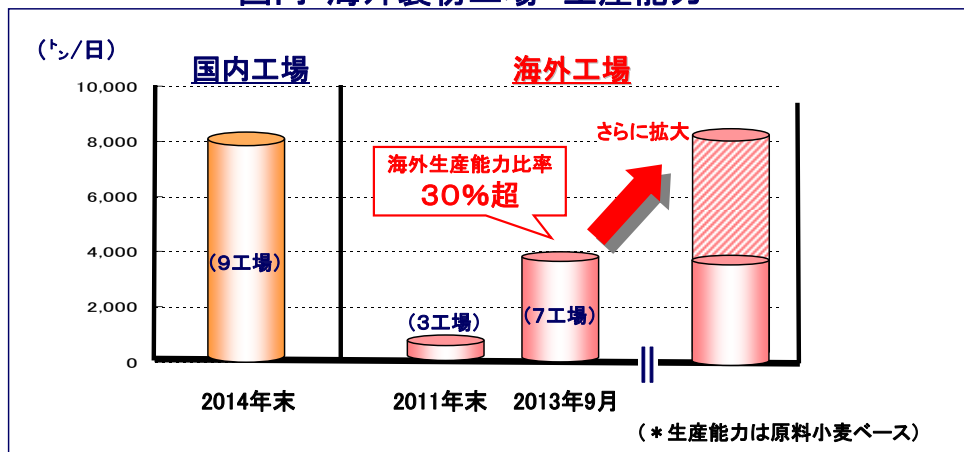
健康と信頼をお届けする



◆海外製粉事業

引き続き**M&A・アライアンス**等を積極的に推進し、海外事業を拡大

国内・海外製粉工場 生産能力



17

現時点での生産能力(原料小麦ベース)は、国内工場が1日当り約8,000トン、海外工場が7工場と同約4,000トンと、海外工場の比率が約3分の1のレベルまで高まってきました。今後も海外工場の生産比率を更に拡大していきたいと考えています。

5. 海外事業の拡大(食品事業)①

健康と信頼をお届けする

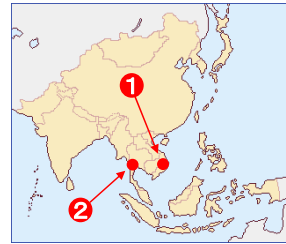
日清製粉グループ

ベトナム日清製粉 設立

調理加工食品の日本国内向けの供給拠点の増強及び将来的なASEAN地域の市場開拓を目的として、ベトナムに現地法人を設立し、海外事業展開を加速

【調理加工食品の海外生産拠点】

- 会社名:ベトナム日清製粉 ①
- 設立:2013年6月
- 資本金:約8億円
- 事業内容:調理加工食品(パスタソース等レトルト食品)の製造・販売
- 工場稼働:2014年秋予定
- 工場設備投資額:約15億円



② タイ日清製粉㈱(1989年操業開始)

現在、パスタソース等の調理加工食品の生産拠点は国内とタイ日清製粉㈱であるが、今後はベトナムを加えた3拠点体制となる

18

続きまして、食品事業の海外施策についてご説明申し上げます。

現在、加工食品事業において、パスタソース等のレトルト食品の供給拠点は日本とタイの2ヶ所となっていますが、3ヶ所目として、今般ベトナムに新たな拠点を設立いたしました。

5. 海外事業の拡大(食品事業)②

健康と信頼をお届けする

 日清製粉グループ

海外業務用プレミックス事業の拡大

現在の業務用プレミックスの海外拠点は、新日清製粉食品(青島)有限公司とタイ日清テクノミック㈱の2工場・2営業体制であるが、新たにインドネシアに販売会社を設立し、2工場・3営業体制とし、また、タイ日清テクノミックの生産能力を25%増強し、ASEAN地域を中心にプレミックス事業の更なる拡大を図る

▶インドネシア日清テクノミック㈱ 設立 ①

- ・事業開始:2013年4月
- ・事業内容:業務用プレミックスの販売
- ・資本金:約1億円

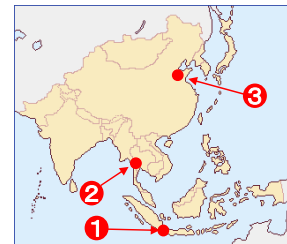
▶タイ日清テクノミック㈱ 生産能力25%増強 ②

- ・増強能力:6,000トン/年
(26,000トン/年→32,000トン/年)
- ・稼働:2014年末予定
- ・投資額:約2億円

▶新日清製粉食品(青島)有限公司 ③

業務用プレミックスの製造販売(2002年設立)、生産能力:10,000トン/年

【業務用プレミックスの海外拠点】



また、業務用プレミックスでは、従来から中国とタイに製造・販売拠点を持っておりますが、新たな販売拠点としてインドネシアに「インドネシア日清テクノミック社」を設立し、更なる拡販に取り組んでおります。

6. 主な海外拠点

健康と信頼をお届けする

日清製粉グループ



20

上図は現在の当社グループの主な海外拠点です。

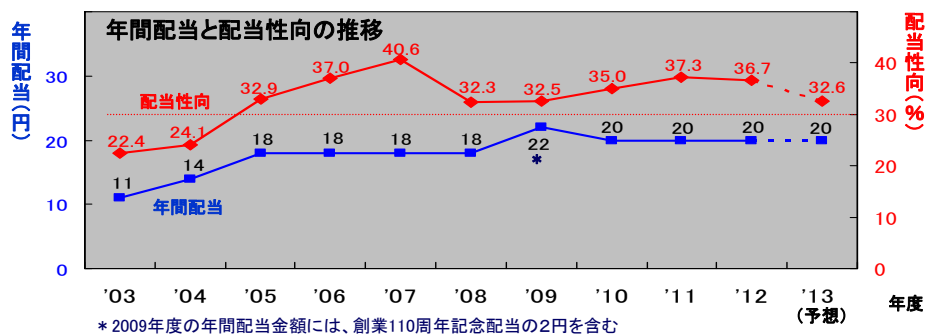
IV. 利益配分について

利益配分について

健康と信頼をお届けする



現在及び将来の収益状況及び財務状況を勘案するとともに、連結ベースでの配当性向30%以上を基準として、配当を継続的に行う



- 株主の皆様への利益還元及び株式の流動性の向上を図ることを目的として、2013年10月1日付けで、1株につき1.1株の割合をもって**株式分割**を実施(分割に伴う配当金の調整は行わず実質増配予定、配当総額の増加は通年ベースで約5億円程度)
- 同日付けで単元株式数を500株から100株に変更
- 今後においても、成長、拡大に向けた戦略投資を含め、現在及び将来の収益状況及び財務状況を勘案して、機動的な株主還元を実施

22

最後に株主還元についてご説明いたします。

当社は、株主様への利益還元と流動性の向上を目的に、10月1日付けで1株につき1.1の割合で株式分割を実施し、合せて単元株式数を500株から100株に変更しました。

今後も引き続き、現在及び将来の収益状況、財務状況を勘案しながら、機動的な株主還元を実施していきたいと考えています。

見通しに関する注意事項

当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、記載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証するものではありません。